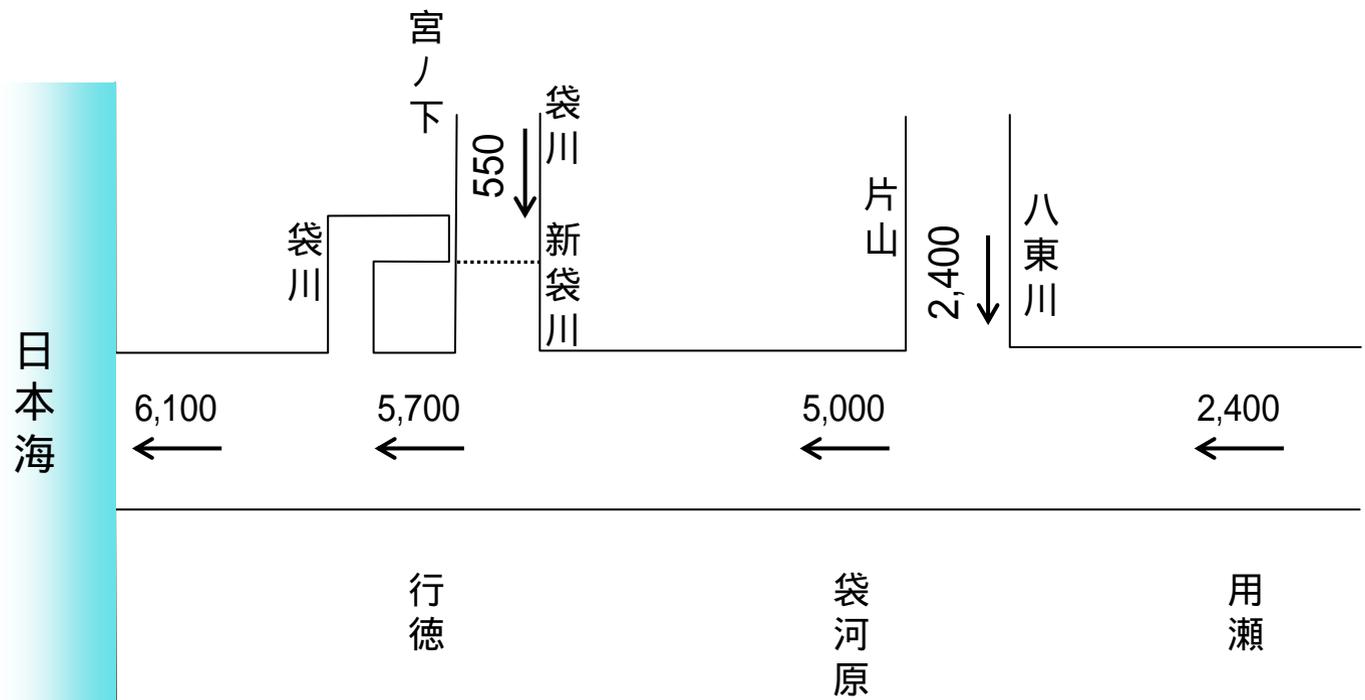


1. 計画規模

100年に1回程度発生する洪水に対しても流水の安全な流下を目指す

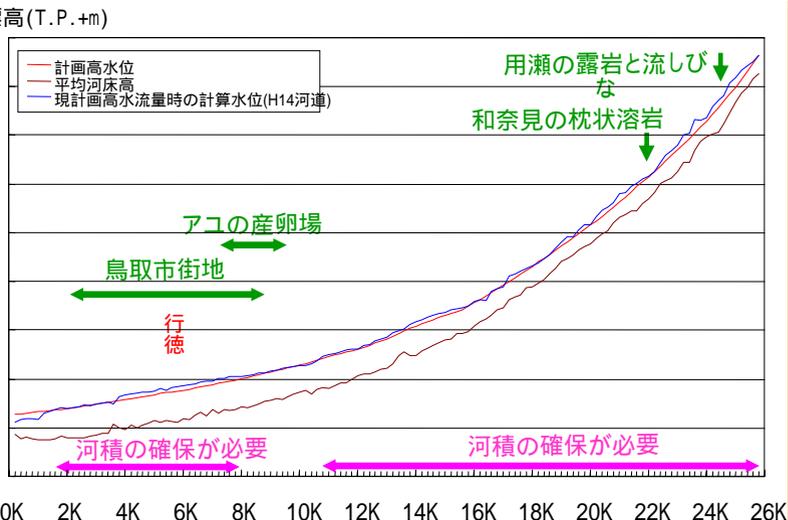
2. 計画高水流量配分

- ・基準地点“行徳”
- ・基本高水ピーク流量: $6,300\text{m}^3/\text{s}$
- ・計画高水流量: $5,700\text{m}^3/\text{s}$ (上流の洪水調節施設により $600\text{m}^3/\text{s}$ を調節)



千代川計画高水流量配分図

流下能力はほぼ全区間で計画高水流量に対し不足



治水計画の考え方

流下能力がほぼ全区間にわたり不足しているため、河道の流下能力を向上させるとともに、上流の洪水調節施設で対応

千代川は鳥取中心市街地を貫流し、市街地部での引堤は困難であるため、現在の川幅の中で最大限の掘削

近年発生した洪水も含め、過去の洪水による河岸浸食の実績幅及び河床勾配、洪水時の流速等を踏まえ、区間毎に最低限必要な高水敷幅を確保

行徳地点で1,500m³/s相当の掘削が可能であり、現況流下能力4,200m³/sと合わせ5,700m³/sを河道で分担し、モニタリングを実施しながら河床及び河岸の掘削

基本高水のピーク流量6,300m³/sのうち、残りの600m³/sを洪水調節施設で対応

千代川上流部では、和奈見地区において枕状溶岩を保全。

用瀬地区においては左岸側の山地掘削がより大規模になること及び右岸側に国道とJR線が存在することから、既定計画以上の流量を河道が分担することは困難

千代川上流部において、既存施設の再開発を含め、洪水調節施設を検討

洪水被害については、排水機場や遊水地の整備等も含めた総合的な内水対策を実施

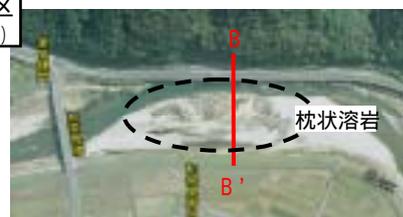
掘削断面の検討

鳥取市街地
(3.0k地点)

- 河床勾配が1/1,500程度と緩やか
- 堤体前面流速が2~3m/s程度と低
- 過去の被災実績も幅2~3m程度と小



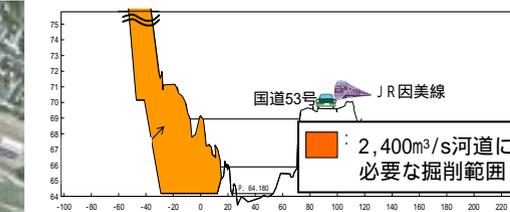
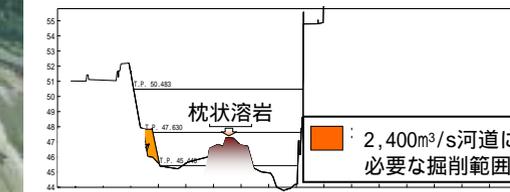
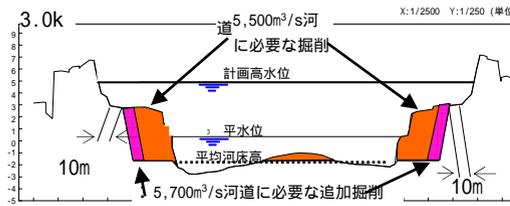
和奈見地区
(21.8k地点)



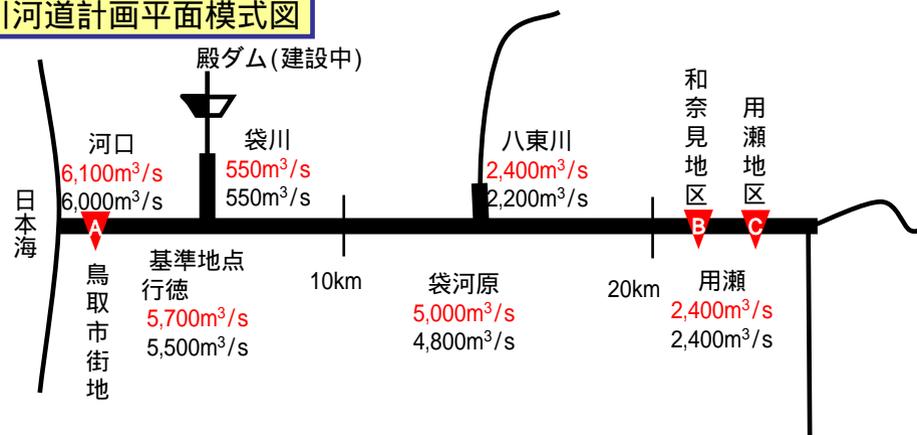
用瀬地区
(24.8k地点)



- 必要な高水敷幅10mを確保すると1,500m³/s相当の掘削が可能
- 河道掘削後の流下能力 : 5,700m³/s (既定計画の計画高水流量 : 5,500m³/s)



千代川河道計画平面模式図



1. 正常流量とは？

川の機能

- ・治水の他、利水機能や環境など多様



- ・河川環境等に関する「河川維持流量」
- ・河川水の利用に関する「水利流量」

↓

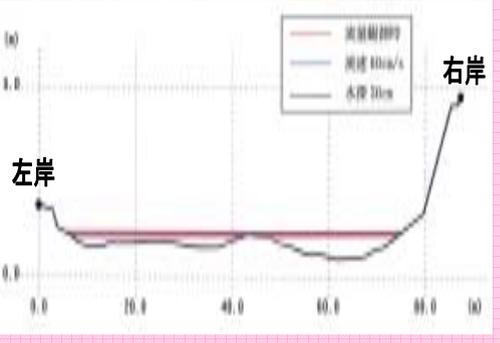
これらの流量を同時に満たす流量

～ の9項目について検討し、それぞれの項目で最小限必要な流量を求め、その最大流量を確保

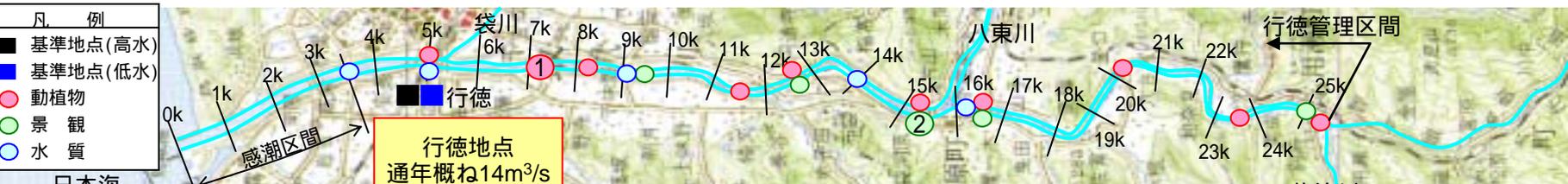
2. 正常流量の設定

動植物の生息地・生育地の状況【因幡大橋下流の瀬】

- ・サクラマス移動期：12.0m³/s、アユ産卵期：12.3m³/s
- ・サクラマス移動水深、アユ産卵流速の60cm/sを確保するために必要な流量を設定



検討項目	決定根拠等
動植物の生息地または生育地の状況	サクラマスの移動、アユの産卵に必要な流量
景観	景観を損なわない水面幅の確保に必要な流量
流水の清潔の保持	濁水時の将来流出負荷量に対して、環境基準の2倍値を満足する流量
舟運	商業的な舟運の利用はない。
漁業	の必要流量と同様とする。
塩害の防止	塩害は発生していない。
河口閉塞の防止	河口閉塞は施設整備により保護している。
河川管理施設の保護	対象とする施設は存在しない。
地下水位の維持	地下水障害は発生していない。



水と緑に包まれた溪谷



今に伝わる用瀬の流しびな



変化に満ちた水辺景観



広大なアユの産卵場



自然環境の整備と保全

- ・豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう努める
- ・地域づくりにも資する川づくりの推進
- ・瀬・淵は治水面と調和しつつ可能な限り保全に努めるとともに、水際の緑の連続性等を確保することによる生物の生育・生息環境の保全
- ・瀬・淵に代表される変化に満ちた水辺景観の保全・維持

河川空間環境(河川利用)の整備と保全

- ・流域の歴史・文化・風土に深く根ざしている千代川



- ・自然環境との調和を図りつつ、適正な河川の利用に努める
- ・水辺空間や河川敷利用に関するニーズを踏まえ、地域に親しまれる河川整備と保全に努める

その他の事項

- ・治水・利水・河川環境との調和を図った河川敷地内の占用、許可工作物の設置・管理
- ・モニタリングをしつつ河川整備や維持管理に反映
- ・地域の魅力と活力を引き出す積極的な河川管理の推進
- ・河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、防災学習、河川利用に関する安全教育、環境学習等の充実
- ・住民参加による河川清掃、河川愛護活動の推進